2LJS

夏期講習

解答

Ｚ会東大進学教室

中２国語

1章

【問題】（演習）

出典…齋藤孝『子どもたちはなぜキレるのか』

解答

問1　a＝静養　b＝奮発　c＝漂　d＝高揚　e＝継承

問2　「がんばる」は意味があいまいなので、広い文脈で適当に使うことができる便利な言葉であること。〔45字〕

問3　「がんばれ」には、どうすればいいかという具体的な身体技術が含まれておらず、どのように身体を動かせばいいかわからないから。〔60字〕

問4　過去に体験した力の出し方の感じを思い出して、現在置かれている状況で粘り強く工夫しようと決意する。〔48字〕

問5　日常生活で褌をすることがなくなり褌を締める感覚がなくなったので、心を「引き締める」イメージを喚起することができなくなったから。〔63字〕

問6　(ウ)

理解を深める

力を出すことが必要な状況で、自分に言葉を投げかけて気力をかきたて意志を強固にすることがある。かつては身体の技術知を伴い具体的なイメージを喚起する「踏ん張る」を用いていたが、戦後広い文脈で適当に使える便利さを持つ「がんばる」という言葉に駆逐された。しかし「がんばる」は固有の意味が薄く、具体的にどうしたらいいかイメージできない。私たちは言葉に含まれた身体知や技術知の文化的な重要性を改めて認識する必要がある。〔203字〕

2章

【添削課題】

出典…河合隼雄『日本人の心のゆくえ』

解答

問1　A＝きょぎ　B＝いっかつ　C＝解（する）

問2　これに対し（て）（21〜22行目）

問3　(エ)

問4　日本人は個人よりも場を優先するので、その場を保つためには、適当に話をしても個人としての責任はないと考えるから。〔55字〕

問5　それぞれの文化は長い歴史の中で洗練されてきているので、他の文化と付き合うのは難しいことだが、日本人は日本の方法に頼りながらその意味を説明していくべきだ。〔76字〕

《補充問題》 口語文法　助動詞①

問1

①＝(イ)

②＝(ウ)

③＝(ア)

④＝(エ)

問2

①＝(エ)・(ケ)

②＝(ウ)・(ク)

3章

【問題】（演習）

出典…『宇治拾遺物語』

現代語訳

昔、インドに、身の色は五色で、角の色が白い鹿が一頭いた。深い山にばかり住んで人には知られなかった。ある時、川に一人の男が流されて、まさに溺れ死にそうになっていた。「私を誰か助けてくれ。」と叫ぶと、この鹿が、川を泳いでこの男を助けてやった。男は、命の助かったことを喜んで、「どのようにしてこの御恩のお返しをいたしましょうか。」と言った。鹿が言うには、「ただこの山に自分がいるということを、決して人に話さないでください。私の体の色は五色です。もし人が知ったら、必ず捕らえられるでしょう。そのことを恐れるために、こういう深い山に隠れてまったく人に知られないでいるのです。だけれどもあなたが叫ぶ声を哀れに思って、自分の身の将来を忘れてお助けしたのです。」と言うと、男は、「それはまことにもっともなことです。決して漏らしはいたしません。」と、何度も繰り返して約束をして去った。

解答

問1　(ア)・(オ)

問2　（法則）係り結びの法則　（活用形）連体形

問3　3＝こえ　5＝いう

問４　人知りなば（４行目）

問５　山に体の色が五色の鹿がいること。

理解を深める

①　私はあなたにどのようにして命を救ってもらったことのご恩返しをいたしましょうか

②　あなたはただこの山に自分がいるということを決して人に話さないでください

《補充問題》 古文

出典…『今昔物語集』

現代語訳

今では昔のことであるが、いつのころだったろうか、清水寺に参詣した女が、幼い子を抱いて本堂の前の谷をのぞいて立っていたが、どうしたはずみであろうか、子を取り落として、谷に落としてしまった。（子が）はるか下の方に落とされていくのを見て、（女は）どうしようもなくて、本堂のほうに向かって、手を合わせて、「観音様、どうぞお助けください」と慌てうろたえた。（子は）もう今は死んでしまったものと思ったが、（せめて、その）様子を見に行こうと思って、心乱れて下りて行ってみると、観音様は気の毒だとお思いになったのであろう、（子は）まったく、けがもなくて、谷底の木の葉が多く積もっている上に落ちて横たわっていた。母は、喜びながら抱き上げて、ますます観音様を泣く泣く心から拝み申し上げた。

これを見る人はみんな、意外なことに驚き騒ぎ立てたと語り伝えているということだ。

解答

問1　a＝ころおい　b＝すべきよう　問2　(イ)

問3　1＝(ア)　2＝(ア)　3＝(ウ)　4＝(イ)　問4　谷に落ちた子どもが無傷で助かったこと。〔19字〕

●メモ●

4章

【問題】（演習）

出典…長田弘『すべてきみに宛てた手紙』

解答

問1　a＝疑　b＝映　c＝反面　d＝事実　問2　(ア)

問3　国際化に伴って、カタカナでしか言えないことばがたくさん入りこんできていること。〔39字〕

問4　(ウ)

問5　この世と人を、また人と人をむすび、多様なものをたがいに認めあう方法としてのことばを大切に使うようにする。〔52字〕

理解を深める

語彙力の低下と、ことばによる連想力の低下によって、感じ、考え、思うことを、自分のことばできちんと生き生きと言いあらわすということができなくなってきていること。〔79字〕

《補充問題》 口語文法　助動詞②

問

①＝(ウ)

②＝(イ)

③＝(イ)

④＝(エ)

⑤＝(イ)

5章

【問題】（演習）

出典…大平健『やさしさの精神病理』

解答

問1　1 集団との協調を目指している点。〔15字〕

2 旧来の「やさしさ」が相手の気持ちと連帯しようとするのに対し、患者たちの「やさしさ」は相手の気持ちに立ち入ろうとしない点。〔60字〕

問2　(エ)

問3　a＝一体感（37行目）　b＝常套句（26行目）

問4　「ホット」のように相手の心に踏みこんでうっとうしい気持ちにさせることなく、「クール」のように客観的な理解を示すだけのものでもなく、その中間にあって、相手の気持ちを察しながらその中に踏みこもうとしない「やさしさ」のこと。〔109字〕

2LJS
中２国語

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製